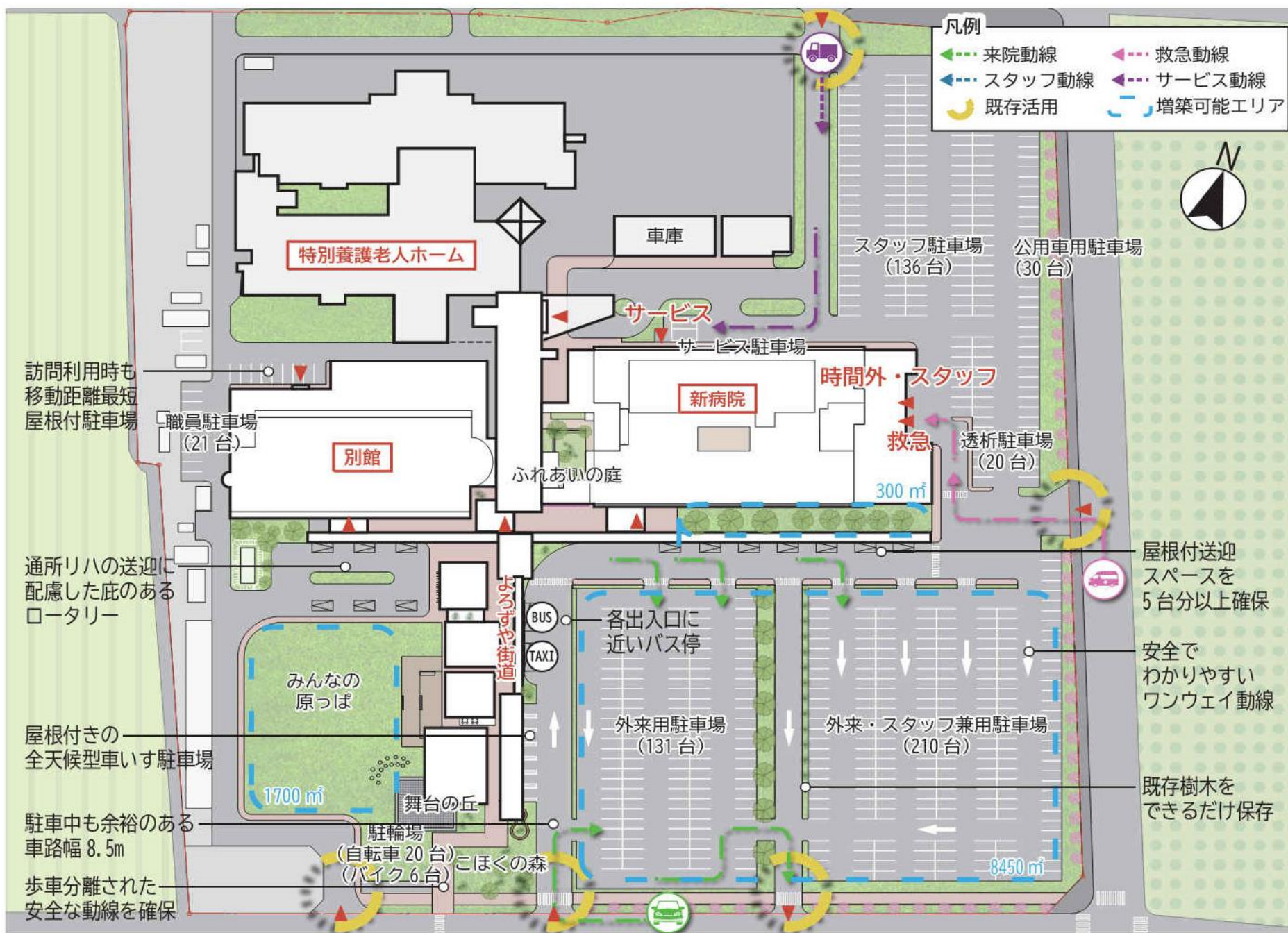


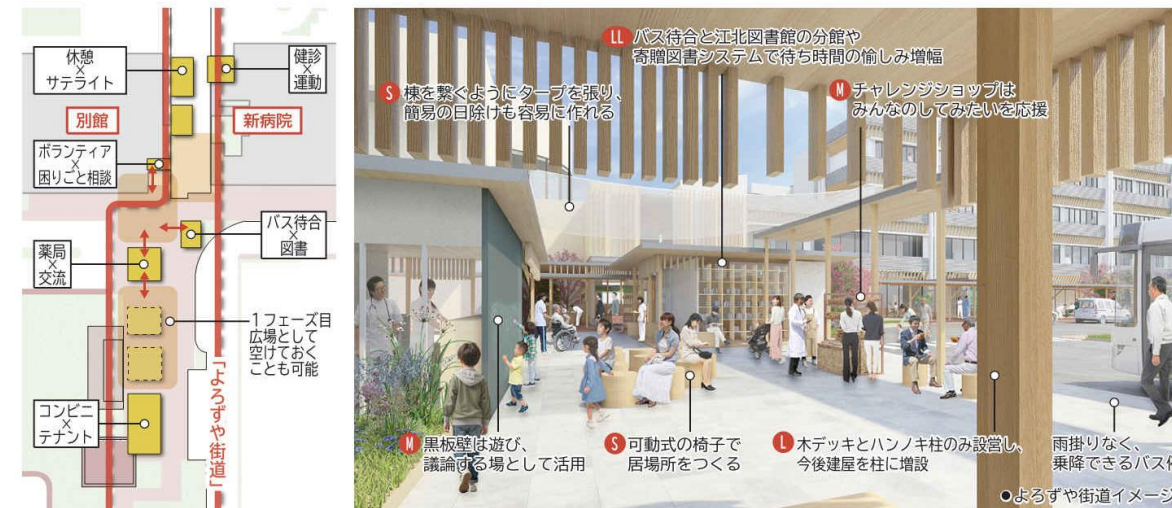
# 今あるものを大切にみんなで作成し続ける生活基盤拠点



まちの生活拠点として、ひと・もの・ことをつなぎ、みんなの日々の営みを支える「よろずや街道」

まち、職員、患者、家族、市民の生活に必要な機能を掛け合わせる

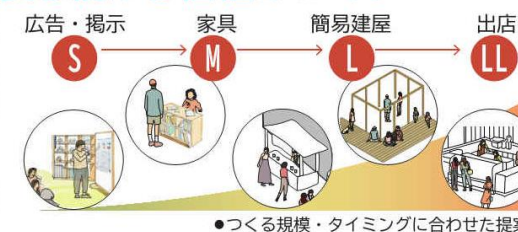
- 新しいスペースや建物をつくる場合も地域の工務店による建設、地域資材の活用により、まちの一つの循環を生み出す機会と考えてつくります。
- 各棟に設置する機能は複数用途を掛け合わせる場とし、新しいコラボレーションやふとした出会いが生まれる環境をつくりま。



継続的な集い、賑わいのカギとなる自治運営と協働を生み出す循環

できるところからやっていく負担なく成長し続ける仕組みづくり

- 最初は風雪除けの底から段階的に必要な機能が成長していくシステムをつくりま。
- 多様な小さな居場所をつくり、多世代が使いたくなる場とします。
- 出店方法のバリエーションを増やすことで誰もが参画しやすい方式とします。

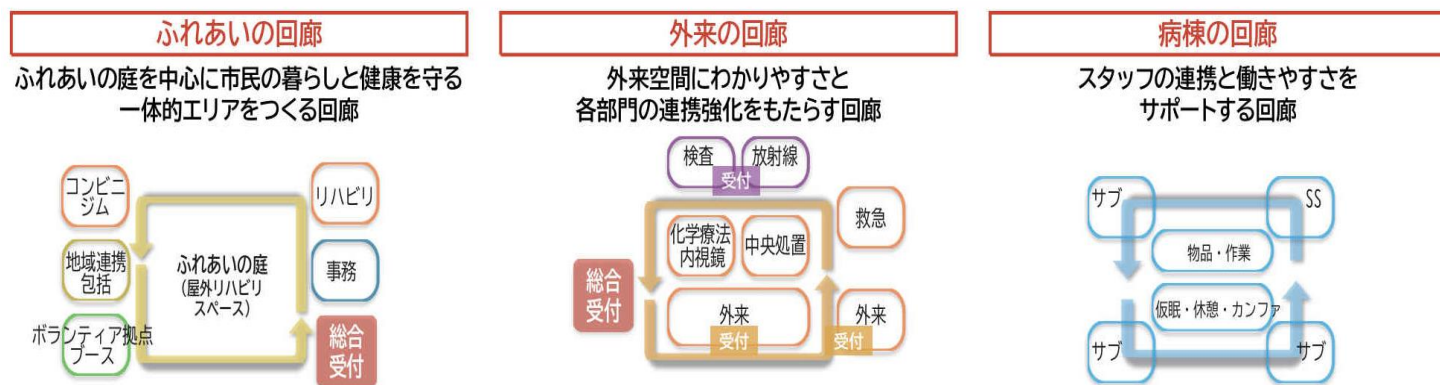


市民参加型のワークショップを行いニーズ確認と機運醸成

- 湖北病院への愛着を高め、「よろずや街道」の自主的な発展を促す、市民参加型のワークショップを開催し、サポーターも募集します。

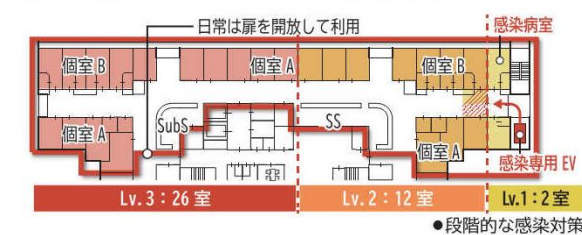


3つの回廊を軸に部門配置し、つながり、わかりやすく、看守りやすい環境



状況に合わせて対応可能な感染対策

- 院内通過を最小限とした入院ルートを確認します。
- 感染拡大にあわせてエリア選択可能な扉をあらかじめ設置します。



回廊がADLを高め、日常生活への復帰につなげる

- 回廊は患者が日常生活へ復帰するための大切な場として整備します。
- デイルーム、デイコーナーをSSとセットで設け、看守られる安心感の中でADL向上や生活リズムの調整に貢献します。
- 歩行訓練に配慮した手摺の連続と床ラインデザインを設け、楽しみながらリハビリができます。

